

私がタバコを吸い始めたきっかけは、ただの興味でしかありませんでした。当時十八歳だった私は、夜間の専門学校に通っていたので朝から学校が始まるまでアルバイトをし、その後勉強という忙しい毎日でしたが、仕事も学校も楽しくストレスのはけ口にしようとタバコを始めたのではありませんでした。本当に「興味」、ただそれだけで、学校の帰りに自動販売機で「一つ買って吸ってみようかな……」と買ったのが始まりでした。

アルバイトの休憩室や学校でも女の子がタバコを吸う光景は当たり前のように、私は「おしゃれ」だとか「かっこいい」という間違えた憧れを持っていたのかもしれませんが。体に悪いこととは知りつつ、「おしゃれ」のためにタバコを始めました。

それから毎日吸うようになり、吸っている自分が少し大人になれたような気がしてうれしかったのを覚えています。慣れないタバコに、一本吸うだけでふらつくこともありました。今思えば本当にばかばかしい話です。「おしゃれ」としてタバコを吸っていたのですから。

しかし、だんだん日がたつにつれてタバコ＝「おしゃれ」ではなくなってきました。自分にとってタバコというものがなくてはならないものになって、私の口が、体がタバコをほしがるようになっていました。常にもっていないとそわそわ、そのうちイライラに変わってゆきタバコを買いに走る、そんな日常でした。

そんな私にある時異変が起きました。タバコが吸えなくなったのです。吸えなくなった、という以上に、かすかに漂う煙さえも、走って逃げだしたくなるような感覚が襲ってきました。妊娠です。つわりといってもたくさん種類があり、「におい」でいうと、ご飯のにおいや、香水のにおい、このにおいは大丈夫だけどこのにおいには吐き気をもようす、という様な事があり、私の場合、タバコのにおいに特に敏感に反応するつわりだったらしく、ひどい時にはタバコを吸っている人を見るだけで気分が悪くなる事もありました。そして、「禁煙！」とがんばる事なく、タバコをすっぱりやめる事ができました。

妊娠したことで、育児や妊娠に関係する本をたくさん読むようになりました。そこには、タバコが人の体に、赤ちゃんにどんな影響を及ぼすかという事を知り、とても恐ろしくなりました。もし、妊娠中にタバコのにおいが平気で、私

も吸いたい欲求にがまんできず吸っていたら……と思うと怖いです。

出産後、同じ病室のある女性は、産んだ翌日から母乳をあげているにもかかわらず、何度もタバコを吸いに外に出ていました。そして「我慢できない。妊娠中も赤ちゃんに悪いと思いつつ吸ってきたし。」とっていました。

愛する赤ちゃんが、おなかに宿っていてもやめることができず、頭では分かっているけど体がほしがってしまうからやめられない。タバコをやめる事はとても難しいんだ……と改めてタバコの恐ろしさを知った出来事でした。

今はタバコをやめてからさん3年半位たちますが、やめて変わったことといえば、タバコを毎日吸う主人のことをとても心配するようになりました。二人そろって吸っていた時は、心配なんてもちろんしなかったし、何も考えていなかったけれど、家族となった今、健康のことをすごく考えるようになり、主人に早くタバコをやめてほしいと思っています。けれど、毎日朝から晩までパソコンにむかう仕事なのに、タバコを吸えないなんて考えられないと本人は言っています。いきなりやめることは、私も喫煙していたので難しいと分かっていますが、少しずつ、本数を減らしていくことからでも始めてほしいと言っています。そして早くタバコをやめて健康を取りもどしてほしいと願っています。

そして、私のようにタバコを吸い始めた十代の若い喫煙者はたくさんいると思います。そんな若い子たちがこれから増えないでほしいと街中のそこら中で吸っている若い子を目にするとと思います。

若い十代の子たちが、悪い一歩をふみ出さないようにどうすればいいのか。と考えてしまいます。自動販売機なんてなくてもいいんじゃないか、タバコの箱に「あなたの健康を損なうおそれがあります」なんて表示するくらいならいっそ販売するのをやめてほしいです。